

『将来の夢』

北鹿島小学校 6年 向井 梨紗

みなさん、本を読むことは好きですか。

「小説って読むとのめんどくさか。」と思ったことはありませんか。ですが、私はこう思います。

「小説は、言葉によって想像を豊かにし、笑顔にしてくれます。だから、小説家になりたい。」

こう思ったきっかけは、六年生の夏におとずれました。SNSでよく見るポエムというものです。ポエムだけがのっている本だと思って、キラキラと輝いている本を手にとると、思いもかけず長い小説もついていました。しぶしぶとページをめくってみると、いつのまにか本にすいこまれるように、あっという間に読み終わっていました。それから他の小説も読み始め、今では夢中になって読み進めています。

「外国語は、『うれしい』という意味の言葉が一つか二つぐらいしかありません。ですが、日本語は『胸が高まる』や『胸いっぱい』と表現方法がはば広くあります。自分の思いを的確に伝えることができるのですてきですよ。」

物語を書いている時の私の心の中には、いつもこう言ってくださった担任の先生がいます。先生のおかげで言葉のおもしろさや無限の広がりを知りました。

私が小説家になったら「一つ一つの表現で読む人を笑顔にさせたい」この目標を達成して多くの人にたくさんの言葉で感動させ、笑顔になってもらいたいです。

小説家になるために、今、努力していること。それは、物語を書くことです。一冊のノートの中には、たくさんの宝石のような言葉でうめつくされています。私の宝物です。

もうすぐ小学校を卒業し、中学校に入学します。新しい環境や勉強、部活動で忙しくなるかもしれません。ですが、初めて小説を読み言葉のもつ力に気づいた感動を、一時も忘れずにいっしゅんいっしゅんを輝かせて生活していきます。

もちろん、たくさんの小説や本にかこまれながら。